

おやつのじかん3 -ちょっとひとやすみ-

—参加するって?—

NO. 73



サッカーも野球もテレビでも観れますが、やっぱりスタジアムに行って、選手と一緒に一喜一憂する、あの臨場感にはかないません。「始まるよ!」と、みんなが一瞬息を止めるあの雰囲気や、せり上がるように盛り上がっていく空気。「やった!」「すごいねえ」「おもしろかった!」の思いが、自然と共有できる場面です。同じ目的で集う人達が元気をもらい合うことと、人々が思いやりを持って、お互い健康に過ごせる尊さとの両立、ここからが、みんなの知恵の出どころなのかもしれないですね。少し緩んできた顔半分の笑顔が、満面の笑みになりますように。

さて、あんずの活動の中で、子どもによっては、いきなり、みんなと一緒に同じことができない場面があります。体操やダンス、ゲームや輪になって遊ぶ時間、制作の時間等、みんなが集うような場面です。一人ひとりどんな姿ですか? どんな気持ちでいるのでしょうか?

例えば、みんなで曲に合わせてダンスや体操をする場面です。見様見真似がまだむずかしいと、同じようにはできません。でも、曲がかかっている間走り回っていたり、身体をゆすったり、みんなが一斉に右手を上げた時に右手の指が小さく動いていたり、部屋の隅からじ〜っと見ていたり、大人にしがみついて目をつぶっていたり、その子なりに感じている姿が、どの子にも見られます。そして、曲が終わると走るのをやめる子、動きを止める子、つぶっていた目を開く子、みんな参加しています。こわごわかもしれませんが、臨場感を味わっています。まずは、その味わい方を尊重したいものです。大人の「~であるべき」の思いを外して見守りたい、寄り添いたい、ですね。

同じようにやってほしいので、大人は子どもの手をとって、みんなと同じ動きをしたくなります。おそらく、それで身体の動かし方がわかるようになることはないでしょう。でも、一緒にやっている雰囲気は味わえます。テンポやリズムを感じることはできます。子どもが笑顔なら、楽しさの波に乗れているのです。同じように身体を動かそうとする思いを膨らませているはず。「ぼくのペースでやりたいな」というサインを感じたら、本人に任せてください。きっと、手から気持ちが伝わってくると思います。

臨場感を持たせるためには、大人が思い切り取り組むことです。踊って見せること、走って見せること、笑顔を見せることです。楽しい時間は、見る力、聞く力、合わせる力を育みます。真似をする楽しさにつながっていきます。時間はかかりますが、多くの子ども達が、真っすぐ参加できるようになります。

その場にいることを拒む子には、無理をさせないことが第一。「えい! やあ!」で連れていかないことです。懲りてしまうと、もっと遠くなってしまいます。まず最初の目標は、“見えるところから、外側から見ていよう”です。自分のセーフティな距離からの参加を楽しみます。もし徐々に前のめりになってきたら、一歩だけ前進。次も前のめりならもう一歩前進。その次の日は、もしかしたら二歩下がるかもしれませんが、それでもOK。もう十分参加し始めていますからね。

「やるのは無理ですが、見ています。それが楽しいんです。」ってことありますよね。ギャラリーがいてこそ、場は盛り上がります。参加するって、違っていても同じ思いでいることではないでしょうか。心の声に耳を澄ませば見えてきます。(R4. 6) K

